

Leeward

2016 年度

No.23



目次

1. 主将から
2. 元主将から
3. OBから
4. 四年生から
5. 部員紹介
6. 活動報告（レース、レセプション、50周年記念式典）
7. 来年度への意気込み
8. 来年度スケジュール
9. 2016年度収支決算
10. 2017年度収支予算
11. 編集後記

1. 主将から

「ヨット部に入り...」

情報電子工学系学科 3年 小俣真輝

52期の主将となりました小俣真輝です。ヨット部に入り、早3年経ちました。何故こんなにヨット部を続けられるか考えると、やはり部の雰囲気の良いところが一番の決め手だと思います。練習する時は真面目に、オフの時は思いっきり遊び、こういうスイッチのオンオフしっかり出来る点は私が望んでいた部活のイメージです。この雰囲気は先代から引き継いだ室工ヨット部の伝統と捉えて良いでしょう。その伝統を私たちはもっとはっきりと切り替えの出来る部活にしていきたいです。そのためにもやはり、大会で勝つための練習をして行く必要があります。自たちの代は3年が2人しかいないため2年生、1年生が主力となるチームとなっていく訳であり、下級生を如何にレベルアップさせるかが、他大学に勝つための鍵となります。そのためにも練習一つ一つにやる意味をしっかりと共有させ、意識させるかが勝つためにそして、部活の雰囲気をより良くするために実行していこうと思います。

ここからは個人的な意気込み等になりますが、51期が最上級生のとき、私は3545のスキッパーとして、数多くの大会に出場しました。2年生の時、全日本470に参加した訳ですが、3年の時は一度も全国大会には出場していません。インカレ本戦、全日本470が相次いで開催されレース速報等見て自分の中で全国の強豪相手にどれだけ通用するかやりたい気持ちが出てきました。私たちの目標は団体戦で本戦出場です。46期がインカレ団体戦本戦に出場して以来出来ていませんので、集大成としても絶対に出場したいです。

最後になりますが、私たちの活動は周りの人に支えてくれるからこそ成立つ部活です。感謝の気持ちを忘れず精進していこうと思います。これからも室蘭工業大学ヨット部をよろしくお願ひします。

2. 元主将から

「あつという間の一年…」

機械航空創造系学科 4年 田村健一郎

この1年間、私たちの活動を、北海道をはじめ、全国各地で見守ってくださった OBOG の皆様ありがとうございました。ブログでご報告しました通り、インカレ団体戦予選は残念な結果でした。また、それが主将としての自分の実力であるのかと思うと、今でこそ悔しいなと思い出します。

前年度の4年生が引退して、私たちの第51期としての1年間が始まったのがつい最近のこのように感じます。毎年、毎年、引退されていく先輩方が「一年なんてあつという間だぞ。」とは、このことなのだかと、引退してやっと、その言葉の重みを思い知らされました。

私が、主将になった当初は、先輩方をはじめ、後輩たちからも心配されていたことと思います。今思い出しても、当時は不安でいっぱいでした。そして、「自信が無い。不安である。」ことに時間を使い過ぎました。それは、「主将のあるべき姿」とはと模索している時間が長かったように思います。主将になってから、それを考えている時点で、他大学よりもスタートで出遅れてしまいました。つまり、それは、室蘭工業大学ヨット部がチームとして出遅れてしまった他なりません。この時、一番の問題は「意志を行動に移せない自分自身」であると痛感しました。実とは言えば、2年生後半の代替わりから、副部長を務めていたわけですが、それは今思えば意味がなかったようです。あの頃にもっと、チームが、自分が、上手くなるにはどうすればいいのか、何をしたらいいのか。と、考え込むことができていたらと、今更ながら、有効な時間の使い方をできなかった自分を責めたくくなります。しかし、当たり前ですが、時間は戻ってきません。

私が先輩との会話の中で、心に残っていることは「ヨットの練習、とくに自分の練習に集中できるのは3年生が最後だと思った方がいい。」この一年、様々な問題が起きるたびにその対処になり、なかなか自分の練習に時間を割くことはめっきりと減りました。就職活動に、研究室に、追われている同期は練習に出られない日もあったりでした。

後輩たちは、特に1、2年生は、来年の自分はどんな活躍をしたいのか。自分たちが4年生になつときに、どんな形で引退を迎えたいのか。など、先のことをも考えて、そのためには、今何をしたらいいのか、何ができるのかを考え込み、それを行動に移して行ってほしいです。

新主将の真輝は、前田と互いに協力しあい、これからの部活が、部員みんなにとっても有意義な時間になるようにしてほしいなと思います。そのためにも、チームとしてどんな目標を掲げるのか、その目標に1、2年生はついてきてくれるのだろうか。部活の雰囲気はどう

だろか、仲良く楽しくしてるだろうか。時には、後輩の意見も聞いてみるのもいいのではないか。主将として、必ずや、面倒ごとに直面することがあると思います。でも、後で、自分や他の部員が後悔しないためにも、面倒臭がらずに対応してやってください。いや、後悔は必ずするので、自分がその時は納得できる策を見つけてください。



3. OBから

「OB1年目より」

機械航空創造系学科 4年 大原 伸

まずは、51期の皆さん、何はともあれ1年間お疲れさまでした。私自身、OBになったばかりで、最も関わりの深い代なので、この1年は在学OBとして、現役の一番近く（時には中に入ったりして）で見守ってきました。インカレ出場という目標を達成できなかったのは残念ですが、これもまた結果です。結果が良くないと、そこに至るまでの苦労や困難が忘れられがちですが、それでは勿体ないと思います。結果を後悔するよりも、過程を反省して後の代につなげるまでが先輩の役目で、部活の意義だといえます。偉そうなことを言いましたが、何が言いたいかというと、引退してOBになってもヨット部は続いているということです。もしインカレ団体戦に出場したければ、現役は勿論のことOBも一丸となって協力しなければ難しいのだと改めて感じたOB1年目だったので、ここに書かせてもらいます。ですから新しくOBとなった皆さんも共に、次世代の室工ヨット部を支えていきましょう。

現役の皆さん、1年間はあっという間どころか、4年間もあっという間です。この短い時間の中でできる事は限られているのでよく考えて、使えるものは全て使ってください。4年生が一気に抜けて上級生は苦労するはずなので、もしOBの力が必要になれば協力を惜しみません。（ただし使い方はよく考えるように。）逆に下級生は濃密な1年間を過ごすことができると思うので、このチャンスを生かしてください。私もあと1年は室蘭にいるので、色々よろしくお願いします。

4. 四年生から

『ヨット部最高！』

機械航空創造系学科 4年 田村健一郎

大学では何か新しいことをしたい。そう思っていた。

ヨット部との出会いは、当時の主将であった48期の市岡さんにSNS越しに食事会に誘われたことである。艇庫での焼肉や、ボーリングにカラオケ、そして、試乗会で初めてヨットに乗った時のあの感動は今では懐かしい思い出になりつつある。入部のきっかけは雰囲気良くて、心底楽しい、全てが新鮮に思えたからだ。それこそ体育会系の部活ではあるのだが、スポーツと言え、中学校の3年間のバスケしか経験がなかった。当然のごとく、夏休みの練習では体力、気力の無さを痛感させられ、冬場の洞爺湖での練習は寒すぎて逃げ出したくなる日もあった。もちろん、辞めたいと思ったこともある。沈するのが怖くて、海に出たくない日もあった。長期の小樽での生活は初めはなれず、ストレスさえ感じた。それでも、ヨット部を続けてこられたのは、室工大ヨット部の同じ釜の飯を食う部員みんなで作る雰囲気が大好きだからだ。それに、戦う相手となる他大学の同期とも知り合えたことも、彼らに負けたくないと思えたことも。本当に引退まで続けてこられてよかったと思う。初めは10人居た同期の選手たちも引退を迎える時には半分になっていた。選手からサポータに転身した人。マネージャーも最後は1人に。彼らの支えがあったからこそ、自分もここまでこられたのだと思う。感謝です。ありがとう！

ただでさえ、自信のない自分に、これだけはという何か誇りが欲しかった。それは、大学の四年間をヨット部にかけて、切磋琢磨し、助け合い、バカできる仲間が居ること。もっとやりたかったこととか、成し遂げたかったこととかあるけど、何よりも楽しかったと思える四年間。とにかく、一番に言えることは、ヨット部最高！

最後にこの場をお借りして、この四年間、お世話になりました、先輩がた、後輩たち、室工大ヨット部関係者のみなさん、ありがとうございました。

「ヨットを楽しめ！」

機械航空創造系学科 4年 堤 友輔

ヨット部での4年間、本当にあっという間でした。体育館勧誘で真っ黒に日に焼けた先輩達の格好良さに惹かれ、なんとなく試乗会などに行っている間に気づけばヨット部しかない！と思うようになっていました。1年生の時はただただひたすらにヨットに乗ることを楽しんでいました。トラピーズに出て風を感じながら海の上を帆走るのが新鮮で爽快でした。2年生になって初めてレースを経験。あの頃は艇の中のことしか見えてなくて他艇など一切見ていませんでした。クルーは他艇を考え、風を読んでコースを取らなくてはいけない...ヨットレースの奥深さを知りますますヨットが好きになりました。3年生になるとようやくレース全体を見渡せるようになり、また練習でも自分には何が足りないのか考えて練習出来るようになっていきました。レースでも結果が伴うようになり勝つ楽しさを知りました。そして4年生となりチームを引っ張っていく立場となります。全国で戦えるチームを作るにはどうしたらよいのか苦戦する中で、下級生ヘルムスと乗るようになり自分の経験を活かし伝えることで共に上達する楽しさを知りました。

後輩たちに伝えたいこと。それは皆はまだまだヨットを楽しめるということ。大学で部活に入ってヨットをやるにはお金も時間もかかります。しかしヨット部にはそれらを費やすだけの価値がありました。ヨットが出来る時間は限られています。一つ一つの行動をよく考え全力で楽しんでください！

最後に書けるだけ感謝の気持ちを伝えたいと思います。

碓井さん・徹さん・大原さん、僕の実力の無さから悔しい思いをさせていただきましたが最後まで全国を目指して一緒に戦えて幸せでした。ありがとうございました。

たむけん・建介・一真・青葉、自分勝手な言動・行動ばかりで迷惑かけたけどこのメンバーだったから同期としてライバルとして共に高めあい最後までヨット部を最高に楽しく続けられました。ありがとう。

真輝・前しょー、頼りない先輩ではあったけど2人のヨットに対する熱い思い、なによりその実力に助けられました。ありがとう。

牧・中西・響・大塚、まだまだ教えたいことはたくさんあったけど日に日に上手になる4人に期待しています。小樽合宿ではチームのために考え行動し支えてくれたね。牧、最後の大会勝つべくして勝ち全レース1位。最高に楽しかった。ありがとう。

室蘭工業大学ヨット部で4年間ヨットが出来る環境にあったこと、支えてくださったすべての人に感謝いたします。ありがとうございました。

「4年生から」

機械航空創造系学科 4年 中岡一真

ヨットを引退してから数か月が経ったが、部活のない週末はどうも暇である（研究などなどやるべきことはあるのだが…）。ほかのOBもよく口にするが、たまに部活に顔を出して後輩のヨットに乗る姿を見ていると、自分も乗りたくなってしまふものだ。現役の時はいつでも乗れたので特別そのように思うことはなかったのだが、いざ自分がその立場になるとよくわかる。

それはさておき、せっかくの機会なので後輩にいろいろとメッセージを残せればと思う。まず、一年生にはとにかくヨットを楽しんでほしい。そして、ヨットに対する興味を深めてほしい。例えばヨットの動画なんかはYouTubeとかで簡単に見つかるから、それを眺めるだけでもいい。何でもいいし少しでもいいから練習以外の時にもヨットに触れてほしい。二年生は、来年度からは先輩よりも後輩が多くなるので、後輩の面倒や先輩のサポートがしっかりできるように頑張る。レースも主力として出るようになり、ヨットに関する新たな面白さも発見できると思う。転換期となるはずなので気を引き締めていただきたい。

三年生は最上学年になって、後輩の指導や部活動の運営などで自分のことに費やす時間が確実に減るだろうけど、ヨットに乗れる期間は残りわずかなので1つ1つの練習やレースをしっかり集中して内容のあるものにしてほしい。たったの2人で大変なことは多くあると思うけど、困ったことがあれば室蘭に残っているOBもたくさんいるから、何でも相談してほしい。

ヨットに関してはこれからもみんなに頑張るしてほしい。しかし、学生である以上、大学生活の方にも頑張るしてほしい。最後に、こんな俺でもギリギリ言う権利があると思うから言わせていただく。みなさん留年しないでください。

「感謝」

応用理化学系学科 4年 間野 青葉

ヨット部四年目スキッパーの間野青葉です。今年の9月17日から20日に行われたインカレ団体戦予選に出場し3位になり全国大会出場することができず引退しました。応援してくださったOB,OGの皆さまをはじめ一緒にレースに出たメンバー、支えてくれた後輩のみんな本当にありがとうございます。結果はとても残念でしたが本当に楽しく、やってきてよかったと思える現役生活でした。この四年間でいろいろなことを経験してきました。入部したての時はヨットがどうゆうものかわからないまま、先輩が好きというだけの理由で入部し今思うととても単純なバカだなと思います笑 ヨットは乗れば乗るほど難しく練習すればするほど課題が出てくるものであり、そのような経験は初めてで、そのことが楽しく下級生の頃は何も考えずただただ部活を楽しんでいました。上級生になると団体戦で勝つという目標で練習を行っていました。結果としては僕自身が足を引っ張り勝てませんでした。同期のみんなには本当に申し訳ないです。敗因は考えの甘さだととても感じました。今後は後輩にこのようにならないように指導していけたらいいなと思っています。これだけ悔しい思いをしても続けてよかったととても思います！周りの先輩、後輩、同期には本当に恵まれていると思います。後輩のみんなには、好いてもらっていて一緒に遊びに行ったり、家に押し入られたりします笑 礼儀知らず(確実に舐めている)なところはちょっとだけありますがほんとに大好きです！僕はOBになっても失礼のないようにします！！

最後になりますが、僕はヨット部に入部して本当に良かったです。室蘭という辺境の地で楽しくなかったはずの学生生活を楽しくしてくれました。そして一緒に青春した仲間もできました。人生で一番の思い出であり、宝物です。この思いをみんなで共有できるように動けるOBになりたいと思います。本当に四年間ありがとうございました。

「1日1日を大事に」

機械航空創造系学科 4年 中澤建介

4年間、あっという間に過ぎ去ってしまいました。もう引退です。自分の思っていた速さをはるかに超えていました。1年生のあの幼かった自分が懐かしい。一番はじめに行った部活勧誘がヨット部でした。ヨット部の新歓は皆勤(笑)。先輩も部活の雰囲気も今でも印象に残っているくらいよかった。それに加えて、マリンスポーツに興味があったからぴったりだった。

1年生、2年生の頃はとにかくがむしゃらに練習して同期に置いて行かれないことに必死だった。2年生のときに堤がレースに出ることになってとにかく悔しかった。そして初めてレースに出たのは春季レース。今でも忘れられない1上1位通過。あの時の興奮は忘れられません。その時にレースの難しさを実感しました。OBさんがよく言いますがレースは多くのことを学ぶことができる場であり、自分に足りないものがより明確になると。

3年生、4年生になりがむしゃらに練習するのではなく、練習の目的をしっかりと理解していろいろなことを考えながらヨットに乗ることを意識した。しかし、なにかもうまくいかない時期があり、本気で部活をやめようか迷っていたが今思えばやめなくて本当に良かった。今までやってきたことのすべてを出してレースに臨んだ。結果は残念でしたが、4年間で多くのことをヨット部で学べたことは一生忘れられません。

来年からはサポートをする側になります。できる限り室蘭工業大学ヨット部に尽くしていきたいと思っています。先輩、後輩、同期、多くの仲間に出会えたこのヨット部に感謝。

「4年生から、マネージャーから」

情報電子工学系学科 4年 田中かおり

まず最初に、辞めて戻ってきた私を受け入れてくれた同期や後輩、話を聞き続けてくれたOB・OGさんがいなかったら私は今こうしてここに4年生からとして書くことはなかったと思います。感謝しかありません。ありがとうございます！

入部した時から振り返ると「ただご飯を作るだけ」そんな軽い気持ちで、2年間は何も考えていない部員でした。本当に申し訳ないです…。でも、辞めて戻ってきた時、今の部活はこのままでいいのかを深く考えるようになってからは、部活に行く回数も増えて、何かできないかと部長としょっちゅうファミレスで部活について何時間も話したり、本当にあっという間で濃い時間でした。

私はマネージャーとしてみんなの支えになれたかはわからないけど、現役最後の団戦でレースを近くで見た時にヨット部に入って良かったと心から思いました。もちろんやり残したこと、後悔もたくさんあります。でも、今となってはあの時全力で悩んだりぶつかったりしていたという自信もあります。なので、後輩達には選手だけでなくマネージャーもサポーターもヨット部に入って良かったと思えるよう、全力でヨットも遊びもやってください！あ、勉強も大事ですよ！！(私が言っても説得力ないかな？笑)

今のマネージャーはとても有能な後輩たちです。やる気に満ち溢れています。こんな有能なマネージャーがいつまでも途切れることなくいる部活になればいいなと願ってます。

最後に...

室工ヨット部のマネージャーで良かった！

たくさんの素敵な方々に出会えて良かった！

これから自分を成長させてくれたヨット部に何らかの形で恩返しできればと思います！
室工ヨット部大好きです！

「4年生から」

応用理化学系学科 4年 三木 洸一

ヨット部元選手、サポートマネージャー、アカペラサークル元部長の三木です。まず、選手だった1年生以降はなかなか部活へ行けず、サポーターとしての役割を果たせないまま引退の日を迎えたことをここにお詫び申し上げます。そんな私を4年生まで所属させてくれたヨット部の先輩、同期、後輩の皆様には本当に感謝しています。ヨット部の一員として4年間を過ごせたことは本当に幸せでした。すんごくいいとこ取りで楽しませてもらったと思います。これは本当に。現役ヨット部の皆様、気がついたらあっという間に引退の日を迎えてしまうと思うので、4年間の限られた時間を大切にして日々勉強しながらやりたい事をたくさんする大学生活を送って欲しいです。4年間経った時にたくさん後悔をするかと思っています。今のうちから卒業までに後悔しないための道をたくさん選んで欲しいと思います。何が言いたいのかと言うと、あれだ、ボーリング行こう。



5. 部員紹介

機械航空創造系学科 4年 田村健一郎

第51回ベストあの人なんでもにやにやしてるんだらう賞の4年連続50回目のグランプリを受賞した田村健一郎氏。テンションの幅が狭く、テンションが高い時はよく理解できないボケを多用してくることが特徴である。私生活は謎に包まれている(マジ)。謎多き彼だが後輩からの信頼は厚い。最近獅子舞かぶってないですよねと言うと、そっちのたむけんじゃないよ、と優しく返答してくれる。

そんな田村氏はベスト急に何でその話してきたの？賞の51年連続51回目のグランプリ受賞を控えており、乞うご期待である。

「堤友輔君の歯ぎしりのもたらす影響および改善策に関する検討」

機械航空創造系学科 4年 堤 友輔

現在、当部活内においてある騒音が問題となっている。それは、合宿中の部員が寝静まる夜に発生する。その1つはいびきである。ある数名のいびきがうるさいと言われることがしばしばある。しかし彼に関してはいびきだけが問題ではなく歯ぎしりまでも発生させるのである。さすがに、大きいびきと「キリキリ」といった歯ぎしりによる不快音のダブルパンチはなかなか強烈である。

歯ぎしりには上下の歯をすり合わせたり、食いしばったり、いくつかの種類がある。その中でも睡眠中に「キリキリ」といった音を鳴らすのは上下の歯をすり合わせるタイプである。このタイプは歯の磨耗を起こしやすいのが特徴で、歯ぎしりをしている年月が長いほど、歯のかみあわせの面がすり減ったり、歯のつけ根が削れたり、歯がしみる知覚過敏になりやすいといわれている。

対処の方法として、マウスピースを使用することで音の発生を防ぐ上、歯への負担を軽減することもできる。また、歯ぎしりの原因の1つにはストレスがあるといわれている。ストレスは、睡眠を浅くする要因であり、深い眠りと浅い眠りを交互に繰り返すことで頬の筋肉が動き、歯ぎしりが起こると考えられている。

歯ぎしりには自分にも他人にも良い影響を与えず、早期の改善が必要だと思われる。

「いつも笑顔のけんすー兄さん」

機械航空創造系学科 4年 中澤 建介

建介（けんすー）についての報告 ・背が高い ・笑顔が素敵 ・ただのイケメン ・スターウォーズ好き ・なんかこっちが申し訳なるぐらい優しい ・真野青葉（カレーパンマン）と仲良しで、あの 2 人が一緒にケラケラ笑っているのを見て いるとなんかかわいい ・割といろんなこと考えている ・大学院進学おめでとう

「かれーぱんまん」

応用理化学系学科 4年 間野 青葉

ヨット部みんなの耳たぶで、まっくろで、でっかい、カレーパンマンのあおばさんですー

背もでかいけど、耳たぶもでかいけど、顔もでかいよ！！存在もでかいです！！
ギョサンの色は黄色です、4年生です、お酒強いです、大原さん専属のツッコミです、褒めます！あおばさんは一、あほだから一緒にいて楽しいです！後輩からもいじられてるけど相当あいされています！！周りのことをとても考えててすごいです、いろいろ話きいてくれるけど、飲み会になるとみんなのこと泣かせにくる悪い人です！スキッパーです。

「中岡さん」

機械航空創造系学科 4年 中岡一真

部内で最高に男気がある人を紹介できることを誇りに思う。入部から今まで奢ってもらった回数は数知れず、さすがらしい奢りっぷり。ヨットにも性格が現れ、コース取りもコンパスを使った正確なもの。しかし、失敗するとその後は博打を打ってしまうことも、、、タックも通称「男気タック」→ちょっとジブ雑ですよー 緑の帽子を生涯つけていくことだろう 皆さん、もうおわかりですよ？

「三木洗一のトリセツ」

応用理化学系学科 4年 三木洗一

この度はこんな三木を選んでくれてどうもありがとう。ご使用の前にこの取扱説明書をよく読んでずっと正しく優しく扱ってね。一点物につき返品交換は受け付けません。ご了承ください。急に歌い出すことがあります。理由を聞いても答えなくせに歌い続けます。いつもごめんね。でもそんな時は懲りずにとことん飲ませてあげましょう。定期的に褒めると照れてしまいます。かっこいいとか小さな変化にも気づいてあげましょう。ちゃんと見ていて。でも部屋汚いとか余計なことは気付かなくていいからね。もしも少し会わなくなってきたり忘れてる時はヨット部で過ごしたあの日を思い出してね。

というように、お酒は弱いけど歌が上手くてヨット部みんなが大好きな三木くんです。

「No.1 かおりん」

情報電子工学系学科 4年 田中かおり

このお店 No.1 譲のかおりんさん。一時期はこの界限から姿を消したかおりんさんでしたが、復活してからはさすがかおりんさん！瞬く間に No.1 に復活されました。No.1 になるだけあります。一見遊んでいるようにも見えますが、とても色々なことをよく考えて、このお店を良くしようと頑張ってくださいています。時には男たちをコロコロと転がし、同伴、アフターなんのその。ヘルプの女の子たちの育成までしていただきっています。もうこの人なくしてこのお店は成り立ちません。ですがかおりんさんももうお店に来て4年が経ちます…。最近はずっと恋愛がしたい…なんて言ってるんです。寂しいです…。しめしめ、これからは私の時代ですかね

「私の頭の中のまさきさん」

情報電子工学系学科 3年 小俣真輝

「まさきさ～～ん」

「あ!？」

「〇〇〇どうしますかー？」

「あ!？」

まさきさん怖い…いや、本人曰く、耳が遠いのだとかなんとか…決して怒っている訳ではないようです。

最近バイトが忙しいみたい。ちゃんと授業でてくださいね!

FRP 盛るのが得意。 ……、って、いやいや、ヨットは大切に!

好きなエナジードリンクはモンスター! 2本も飲んでしまった日には・・・?!

今年一番の失態は??

→タバコで、後輩のスヌーピーのぬいぐるみを汚してしまったことです。。

まあ、こんな感じです。 ラスト一年楽しんでいきましょうね!!

「海の男まえしよーさん」

情報電子工学系学科 3年 前田 翔

キラキラ輝く水面見つめ、眩しい様に目を細め遠くを眺める男がいる。

そう、彼こそが海の男。

海の神様が微笑みを向けたのはこの人だけかもしれないというほど、海が似合う。

まさに九州男児、潮騒のおばさんからは異常に気に入られる程の男前。

海の上では、真剣そのもの。妥協は許さず、技術の向上へ力を注ぐ。その熱心さは、後輩、先輩問わず支持を受けている。

今年の夏はどんな暴れ方をしてくれるのだろうか。乞うご期待。

「よっぴー」

機械航空創造系学科 2年 牧 祥巨

今回はよっぴーこと二年スキッパーの牧祥巨について紹介したいと思います。

よっぴーは二年生の中でも一番大会に出場していて、経験が豊富な選手です。特に強風には乗り慣れていてさすがという感じがします。練習中はかなり集中しているので、厳しい一面を見せる時もあるのですが、普段はとても優しく、ムードメーカー的存在になっており、上級生、下級生を問わずみんなに慕われています。実力的、性格的にもよっぴーが次期部長に相応しいと期待されています。

普段の生活では、勉強、バイトに頑張っており、特にバイトに関しては頑張りすぎて心配になることがある位です。それでも体調を崩さず生活していて、中々タフな男です。

最後に、よっぴーが次期部長に選ばれることと、よっぴーの体重が少しでも増えることを心の中で願ったところで紹介を終わりにしたいと思います。

「トップホーンを響かせろ」

建築社会基盤系学科 2年 伊藤 響

彼の名前は伊藤響。とてもカッコいい名前ですね。新潟県出身の色白な男の子。大きな目に低い声、室工でもトップレベルのイケメン君です。明德寮の住人でお酒が大好き。二日酔いで部活を休んでしまうことも…。いつも眠たそうで起きてるときはニヤニヤしてることが多いような（笑）。そんな彼ももう2年生。4年生が抜けた今、最上級生クルーになりました。同期の大塚君とのエースクルー争いは楽しみですね。3669の一員である彼、最近穴が空いたデッキを綺麗に直したり、練習中に色々なことを考えながら乗っている姿は本当に頼もしいです。この夏は初めてのレースを経験。悔しい思いもたくさんたでしょう。これからはこの経験を活かしてさらに成長し、祝津の海で響君がトップホーンを響かせる日を期待して応援したいと思います。ファイト響！！

「ヨット部のゴミ大臣 大塚さん」

機械航空創造系学科2年 大塚 樹

ヨット部での彼の役割は艇庫で出たごみをまとめて、分別しゴミステーションまで運搬することです。この重要な仕事の最高責任者を務めているので部内ではゴミ大臣と呼ばれています。

しかし、ゴミ大臣にも関わらず彼の部屋はいつもゴジラが暴れたかの様に荒れています。

そしてゴミ大臣はよく、何か分からない鼻歌の様なものを微妙な音量で歌っています。小樽合宿ではいびきを立てながら、いつも白目で寝ています。

陸では少し変わったゴミ大臣ですが、海に出るとかっこいい先輩クルーに変わります！海の上での真剣な姿は是非見習いたいです。

「佐藤直紀の他己紹介」

機械航空創造系学科2年 佐藤 直紀

彼は一年の10月からヨット部に入部しましたが、最初はテツさんに似ていると言われ、その後ホモとして疑われ、今尚疑いは濃厚なまま。

ともあれ、そんなホモの直紀君はサポーターとしてヨット部の活動を支えてくれています。

「〇〇〇に中西紫織さんについて突撃インタビュー」

機械航空創造系学科2年 中西 紫織

うわっ、急になんですか。ちゃんと事務所の許可取ってんの？えっあっ、許可でてるの。

変な仕事ばっかやってきやがって。はあ、どうぞ始めてください。

1.まずどなたを紹介しますか。

名前は中西おしりです。あっ間違えました、中西紫織です。

2.〇〇〇さんから見た紫織さんの第一印象を教えてください。

う～ん、そうだね、第一印象は顔がでかいことかなー（笑）。しかも背が小さいから、さらに強調されちゃってるんだよねー。あとうちの部活「三大顔でか」がいるんですよ。大〇伸（おお〇のぶ）くん、間〇青〇くん（今年ようやく6歳になりました）、そして中〇〇織。3人そろうとなかなか迫力ありますよー。

3.チャームポイントは何ですか。

顔のでかさです（即答）。なぜか知らないですが、あの顔のでかさ落ち着きますねー。不思議と。

4.好きなもの、ご存知ですか。

スヌーピーです。彼女は何より誰よりスヌーピーを愛しています。もう、いっそのことスヌーピーと結婚すればいいと思いますね。この前、いたずら好きの小俣くんがスヌーピーにタバコの煙で汚してキレてました。オソロシイオソロシイ👊。

5.紫織さんのよく使う言葉なんてありますか。

大塚まじないわー、大塚きもっ、とかですかね。基本的に大塚くんには当たり強いです。大塚くんもそれがうれしいみたいなんです。

これでインタビューは終わりです。お疲れさまでした。室工ヨット部は癖が強いですね。

「ジャパネットタマオキ」

機械航空創造系学科2年 玉置 理奈

さて、本日ご紹介する商品はこちら!!いろんな場面で大活躍間違いないでしょう
『たまおき りな』です!!
なんとこちらの商品

○最小ランキング **第1位**

(世界でも最も小さいサイズ。全長スピポールより短いくらい)

○部屋汚いランキング **第1位**

(いつの食器?!いつの服?!いつ開けたおやつ?!なにこの段ボールの量!?!のオンパレード)

○車ぼこぼこランキング **第1位**

(所有期間半年で両手で数えきれないほどぶつけた。フロントもヒビ入った。あんなところにもぶつけた...)

○男をたぶらかしちゃうランキング **第1位**

(得意技：チラリズム)

どこかに行きたいときには彼女と一緒にぼこぼこになりながら、
なんか人肌恋しいなというときには彼女の汚い部屋でいいサイズ感の彼女と一緒に過ごす
なんて使い方もできちゃいます。

今回は特別価格です!お値段なんと ¥ホットモットのお弁当 です!この機会にぜひお買い
求め下さい。

「テルマ」

機械航空創造系学科 1 年 青山 和輝

「あ、はい」でお馴染みの彼の名前は青山和輝、愛称はテルマ。あの女性歌手に倣っているのは言うまでもない。子供の頃からこの愛称で親しまれてたらしい。

兵庫県加古川市出身

3 人兄弟の末っ子で姉が 2 人

小樽合宿中、スマホのパスワードを忘れてスマホを初期化

最近山岡家でバイトを始めた、火曜と木曜は山岡家へ！

そんな彼だがヨットでは 1 年生の中で 1、2 位を争う技量である。

今後の活躍に乞うご期待！

最後に本人から一言どうぞ

「結婚してえ～(切実)」

「顔芸の夏帆」

機械航空創造系学科 1 年 小林 夏帆

夏帆と言ったらレセプションでの顔が印象的だ。他大学から顔芸のおかげで盛り上がり、顔芸のおかげで名前も知られる程インパクトが強い。

そんな夏帆の日常は普段は真面目だ。とにかく真面目だ。だが、飲み会や、カラオケなど行くと普段は見せないギャグ等をする。

高校の時にはソフトボールの部長をしながらサッカーもしていたらしいのでヨットにも期待出来る 1 年生だ。

「光星高校で高校生やった孔晴です」

情報電子工学系学科1年 古川孔晴

彼は諦めない漢である。常に彼女をつくることを目標に日々奮闘！どんなときでもさっと女の子に駆け寄り、すぐさまご飯に誘う。たとえ断られたとしても 諦めず、食い下がる。何度だって挫けず立ち上がる。その勇姿は室工大の漢たち の模範ではないだろうか。そしてもう脈がないと判断すると、その後の行動は素早い。すぐさま他の女の子にタックをかえすという引きの良さ。・・・そろそろ怒られそうなので真面目な話。 情電だけあって孔晴はパソコンなどが得意！レセプションでも縁の下の力持ちとして活躍。まさに陰の立役者！ 以上。

「僚ちゃん」

機械航空創造系学科1年 糸井 僚太郎

糸井僚太郎くんの紹介をしまーす。1997年6月30日生まれ。身長は179cm（自称180cm）、おっきいですねー。うらやましいっす。体重は71kgくらいかな。最近はダイエットに成功したようです。すごーい。出身は大阪府、都会生まれ都会育ちのシティーボーイくん。そんなにシティーボーイって感じはしないけどなー。

趣味は料理。料理長とも呼ばれているほどお料理上手です。ゆえに「スナック 僚ちゃん」を経営。内股歩きでオネエ体質の女子力高い系男子です。そんな彼は男子力高い系女子がタイプのようなのです。しかし、女子力高いと言われている彼にも男らしいところがあります。工業高校出身で、色んな資格を取りまくっています。目指すは2代目大原さんでしょうか。またよくバイクに乗っていて、バイクで色々な所に行きます。どこに行ったことがあるとか、詳しいことは忘れたので本人に聞いてみてください。これで紹介を終わります。

「起きてますか？」

機械航空創造系学科1年 脇田 彩加

今回私が紹介するのが今年の4月に入部してきた一年生の女子？について紹介したいと思います。まずはステータスをご紹介します。

名称 わっきー (本名 脇田 彩加)

性別 女性(仮)

特徴 開いているかわからない目

口癖 なんすか (偉そうに)

このような高スペックの彼女なのですが、最近発覚したことが今生きる現代っ子なのに未だにネットで買いものをしたことがないということがわかりとても驚き、その理由が「欲しいものがないから」。この物欲のなさにとっても驚きました。このような彼女でも部活だと毎回元気に参加し、積極的に活動しています！！

「おっきいマネージャー」

機械航空創造系学科1年 藤原 華子

ヨット部1年マネージャー藤原華子の紹介をする。

身長は高いが細身、華奢でありフワフワした言動と相まって彼女の周りは重力が弱くなっているように見える。

頭の中がお花畑だからはなこという名がついたとかつかないとか。

持ち前の発言センスと天然行動はヨット部に癒しと苦笑をもたらしてくれる。

そんな感じでヨット部ではアホの子認定されている彼女だが
大学入試4位という過去を持つ。人を見た目で判断してはいけませんね。

部活ではマネージャーとしてバリエーション豊かな艇庫飯を作ってくれている。
いつもありがとう。これからもヨット部を支えてってください。

「謎多き変人さん」

機械航空創造系学科1年 山城 琢海

金色とアニメを愛してやまない、かわいい男の人と幼女が好きな一年男子
この文章で紹介が終わってしまうような男です。

やったこと、やられたことを書き出していきましょう。

*二年生の先輩や四年生の先輩の家いきなり訪れ、居座り、そして荒らす

*同期の男の子とキス未遂

*先輩の男の人に抱き着く

*クッションを盗まれ、1か月以上持ち出されても怒らない

*部屋を荒らされても怒られない

*部屋のカーペットにチーズを大量にこぼしても怒らない

*好きな先輩にはついついため口

【ここに記載されていることはノンフィクションです。】

今後は犯罪をしないことを願いそして今後の選手としての期待をして紹介を終わります。

「會田誠人について」

情報電子工学系学科1年 會田 誠人

會田誠人（あいた まさひと）とは、とりあえずイケメンである。イケメンはなんでもできると聞くが、會田はまさにそれである。

スポーツはもちろん勉学にも手を抜かず、いつもニコニコして、人一倍負けず嫌いな性格

と、イケメンの要素をかたっぱしからたたき込んだような人物である。

欠点をあげるとするならば、時々イントネーションが微妙におかしい、なんとなくオネエ

が入っているのでは？と感じさせる行動、といったくらいである。

まとめると、少々の欠点はあるものの、まごうことなくイケメンと言われる人種である

「瀬尾さん(瀬尾っち)とは」

情報電子工学系学科1年 瀬尾 涼太

瀬尾さん、瀬尾っちの愛称で親しまれている

白いワンピースに麦わら帽子が似合うはず

顔が白い(色白)

ポーカークフェイス

お酒が強い(静かに呑むタイプ)

夜間でミーラーなの大変だけど頑張ってる

スマブラがめっちゃ強い

いい声、イケボ

恥ずかしがり屋で寝るときはうつ伏せになってクッションで顔を隠す

小柄で超軽量級！

成長を見越して服のサイズは大きめ

まだ成長期はこれからだ！そう信じよう

「ハラショーな原田祥五」

情報電子工学系学科1年 原田 祥五

とあるところに原田祥五という若者がおりました。彼は、本当によく寝る人で、寝坊はもちろん、チャッカでも寝てミーティング中も寝ていました。起きたかと思えば、やきそばべんとうを食べ、コーラを一気飲みして先輩の名前をげっぷせずに言い、艇庫のシャワーを独占していました。

そんなあるとき、彼は小型船舶の二級に挑戦しました。結果は見事合格、すぐに免許証が送られてきたのですが、そこに記載された名前は、ハラダとなっており彼は訂正をもとめていました。このときヨット部のほとんどが初めてハラタであると知ったことでしょう。

原田祥五は普段ハラショーと呼ばれています。ハラショーとはロシア語で素晴らしいという意味。そんな素晴らしい彼の今後の活躍を期待します

6. 活動報告（レース、レセプション、50周年記念式典）

【国民体育大会 北海道予選】

国民体育大会セーリング競技大会 北海道予選										
基本情報					結果		1R		2R	
	所属	Sail No	ヘルムス	クルー	合計点	順位	順位	点数	順位	点数
1	北海道大学	424	溝口	町谷	2	1	1	1	1	1
2	小樽商科大学	4531	小池	秋山	10	5	7	7	3	3
3	小樽商科大学	4376	長岡	田中	17	7	11	11	6	6
4	小樽商科大学	4072	堀	久保田	22	11	12	12	10	10
5	室蘭工業大学	3805	前田	田村	12	6	5	5	7	7
6	室蘭工業大学	3545	小俣	堤	6	3	2	2	4	4
7	室蘭工業大学	3669	牧	中岡	17	8	6	6	11	11
8	室蘭工業大学	3542	間野	中澤	9	4	4	4	5	5
9	北海道大学	4139	野崎	村上	22	12	10	10	12	12
10	北海道大学	4290	金井	小倉	17	9	9	9	8	8
11	北海道大学	3993	鈴木	田林	17	10	8	8	9	9
12	室蘭工業大学	42	市岡	野田	5	2	3	3	2	2

「国体・反省」

中岡 一真

1レース目の1上で多くの艇がマークを見間違え、サイドマークに向かっていくというミスがあった。風の振れやマークの設置位置などが、たまたまうまく作用して見間違えるようなことが起きてしまったのかもしれない。例えば、タック・ジャイブといった動作やコース取りなどの技術的なミスは、練習で修正しカバーすることができる。しかし、今回のマークの見間違えといったミスは単に注意不足であり、やってはいけないミスである。自分らがこういったミスを無くしていけば、たとえ技術で劣っていても（高い技術を持っているに越したのとはないが）、相手のミスに付け込んで戦っていけるはずだ。

一緒に乗った牧は、初レースで緊張していたが、まだ二年目なので多くのレースに出て経験を積んでいってほしい。二年目の中では一番多くレースに出ているので、その経験を同期・後輩に伝えていってほしい。

「国体北海道予選」

間野 青葉

勝つために何が足りないのか、今後の練習で何を練習しなくてはならないのか、が浮き彫りになるような大会でした。レース経験の浅い自分としてはこのレースで多くのことを学びたい、そして団体戦で勝つためには何が必要なか明確にするというのが目標でした。この目標を少し達成できたのは良いことです。しかし肝心なところでミスが目立ち、結果は四位でした。レース数が2レースと少ないために順位はそこまで低くはなかったですが7,8レース行っていたらどこまで順位が下がっていたかと考えると自分の下手さを痛感しました。

4年生ヘルムスが一人なので何としても一番前を走っていたかたのですが結果を見ると2番手であり、さらに実力を考えると3番手であるとはっきり感じました。とても悔しいです。この事実をはっきりと重く受け止めて今回のレースで課題と感じたものを克服できるようにそして一番手になり団戦で勝てるように頑張ります。

【インカレ個人戦予選】

全日本学生ヨット選手権大会 個人戦北海道予選																				
基本情報					結果		1R		2R[3R		4R		8R		6R		7R	
1	所属	Sail No	ヘルムス	クルー	合計	順位	順位	点数	順位	点数	順位	点数	順位	点数	順位	点数	順位	点数	順位	点数
2	室蘭工業大学	3545	小俣	堤	35	7	OCS	14	7	7	3	3	9	9		5	4	4	7	7
3	室蘭工業大学	3805	前田	田村	23	3	3	3	9	9	4	4	5	5	2	2	6	6	3	3
4	室蘭工業大学	3542	間野	中澤	48	10	8	8	10	10	9	9	7	7	8	8	8	8	8	8
5	室蘭工業大学	3669	牧	中岡	57	11	OCS	14	11	11	11	11	8	8	11	11	7	7	9	9
6	小樽商科大学	4531	小池	秋山	17	2	2	2	6	6	1	1	2	2	4	4	2	2	RET	14
7	小樽商科大学	4376	長岡	田中/橋本	32	6	6	6	5	5	7	7	10	10	9	9	3	3	2	2
8	小樽商科大学	4072	堀	久保田	39	8	7	7	4	4	8	8	12	12	10	10	5	5	5	5
9	北海道大学	4424	藤田	和泉	24	4	PTP	7	2	2	2	2	6	6	7	7	1	1	6	6
10	北海道大学	4290	金井	小倉	46	9	9	9	8	8	10	10	3	3	6	6	10	10	10	10
11	北海道大学	3993	鈴木	田林	26	5	PTP	8	3	3	6	6	4	4	1	1	9	9	4	4
12	北海道大学	424	福田	森下	15	1	PTP	4	1	1	5	5	1	1	3	3	11	11	1	1
13	北見工業大学	4378	小原	高尾	68	12	10	10	12	12	12	12	11	11	12	12	12	12	11	11
14	北見工業大学	3883	三坂	堀	80	13	11	11	RET	14	RET	14	RET	14	RET	14	13	13	PTP	14

「インカレ個人戦予選」

中澤 建介

今年のインカレ個人戦は2日間ともに風向、風速、安定したコンディションでレースを行うことができました。団体戦前の数少ないレースでした。全体を通してどのレースも気持ちよくスタートできていませんでした。さらに順位を上げられなかった原因として他艇とのインシデントの数がとても多かったことです。各艇ともにミスをしないうるいを心がけました。ミスをするによって順位を落としてしまうことはわかりきったことであり、ミスをしないうるいことで上位を狙うことができる。多くの艇がスタートをジャストタイミング、フルスピードで、きれていなかったように見えた。その中でもスタートを成功した艇が頭1つ2つ出しておりレース展開を有利に進めていました。個人の反省として、かなり無駄な距離を多くの場面で走っており特にリーチングでは上して走りすぎました。もっとラムラインを意識して走るべきでした。無駄なラフィングマッチが多かった。インカレ個人戦予選ではどの艇も団体戦までに意識しないといけないところがより明確になったと思います。

「ペナルティの大事さ」

情報電子工学系学科夜間主コース 3年 小俣真輝

今回 3545 のスキッパーとして堤さんと出場しました。結果も内容も最悪でした。1レース目に DSQ を叩いてしまい、その上 2 日合わせてペナルティ履行を 3 回。その挽回も出来ず不甲斐ない結果を出してしまった。個人戦に向け堤さんともずっと乗ってきたわけだし、本戦にも行きたかった大会なので、一つの判断で大きなミスをしてしまいとても悔しかった。今大会を通してケースを如何になくすかとても大切なことか思い知った。

また、この大会はカットレースがあるとはいえ、横文字を叩いたことは本当に反省すべき点である。個人戦予選を通して、結果は悪いが、次の大会へ繋がる教訓が出来た。



【全道選手権】

全道選手権																
基本情報					結果		1R		2R		3R		4R		5R	
	所属	Sail No	ヘルムス	クルー	合計点	順位	順位	点数	順位	点数	順位	点数	順位	点数	順位	点数
1	室蘭工業大学	3805	前田	大塚	17	4	6	6	3	3	1	1	10	10	7	7
2	室蘭工業大学	3669	牧	堤	27	8	9	9	7	7	OCS	14	8	8	3	3
3	室蘭工業大学	3542	中西	田村	34	10	11	11	8	8	6	6	RET	14	9	9
4	室蘭工業大学	3545	小俣	伊藤	39	13	10	10	9	9	9	9	RET	14	11	11
5	室工OB	42	市岡	佐々木	34	9	7	7	5	5	8	8	RET	14	DNC	14
6	室工OB	542	西島	神田	38	12	OCS	14	OCS	14	4	4	6	6	DNC	14
7	北海道大学	4424	藤田	三ツ田/和泉	11	1	5	5	2	2	3	3	2	2	4	4
8	北海道大学	4290	金井	小倉	37	11	8	8	OCS	14	PTP	14	PTP	10	5	5
9	北海道大学	3993	鈴木	田林	15	3	2	2	1	1	5	5	9	9	8	8
10	北海道大学	424	植田	森下	15	2	OCS	14	6	6	2	2	1	1	6	6
11	小樽商科大学	4531	小池	秋山	23	7	3	3	OCS	14	OCS	14	4	4	2	2
12	小樽商科大学	4376	長岡	田中	15	5	1	1	OCS	14	OCS	14	3	3	1	1
13	小樽商科大学	4022	堀	久保田	20	6	4	4	4	4	7	7	5	5	10	10

「全道選手権について」

大塚 樹

今回の全道選手権は僕たち2年にとってはデビュー戦でした。初めてのレースに緊張しましたが、その分楽しくもありました。

来年からバシバシレースに出ていきたいと思いました。

「北海道全道選手権を振り返って」

伊藤 響

この大会は私が初めて選手として出場し、結果ボロボロに負け本当に悔しい思いをした大会でした。このときの風速はインデッキから半トラ程度で一番自分たちが練習して安心して乗れるような状況でした。しかし、結果として惨敗してしまいました。その一番の理由として挙げられるのはタクティクスやストラテジーといった戦術的なことではなくましてや自分の動作面や技術面でもなく本当にそれ以前の問題でした。

大会は 3545 でまさきさんと出場しました。洋上に出てすぐにきがついたのですが片方のカムが全くかかりませんでした。そしてどうすることもできずそのままレースに臨みました。レース中一番ショックだったことがクローズで後ろから来ていた二艇に自分の左右を通過して同時に抜かれたことです。明らかに艇速が遅い理由としてそのとき大量に船に水が入ってきていてセンターのねじのそこから入ってきていたというのを後で知りました。

この大会で自分が惨敗した理由として技術や知識が足りなかったことももちろんあると思います。ただ、それ以前のことのせいで自分の実力が確認できなかったことが本当に悔しいことでした。



【インカレ個人戦本選】

全日本学生ヨット選手権大会 個人戦本選																				
	基本情報				結果		1R		2R		3R		4R		5R		6R		7R	
	所属	Sail No	ヘルムス	クルー	合計点	順位	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	同志社大学	4587	渡辺	三好	28	1	2	2	3	3	6	6	4	4	10	10	28	28	3	3
2	日本経済大学	4480	平野	高柳	32	2	1	1	8	8	4	4	7	7	3	3	9	9	34	34
3	関西学院大学	4594	山本	甲斐	37	3	6	6	7	7	9	9	8	8	32	32	5	5	2	2
40	関西学院大学	4408	上野	大野	208	40	37	37	35	35	35	35	34	34	37	37	31	31	36	36
41	室蘭工業大学	3805	前田	田村	211	41	45	45	41	41	37	37	41	41	26	26	41	41	25	25
42	東京大学	4452	谷	柏木	213	42	32	32	34	34	41	41	31	31	41	41	38	38	37	37
44	北海道大学	4424	福田	森下	223	44	34	47	43	43	42	42	40	40	33	33	45	45	31	31

「インカレ個人戦本選 in 西宮」

田村 健一郎

自分自身2回目となる全国大会でした。スキッパーの前田（当時3年）とは、春からずっと乗り続けて来たのですが、こと、レースに関しては、この場にこられたことも、本戦で戦えたことも、彼の実力のおかげであると思っています。4年生の身としては、これはすごく情けないと思います。ありがとう。

西宮の海面は、水平面で、周囲が工場地帯、沖に出ることはできないのでレースエリアもそれほど大きさは取れず、どこか室蘭と似た雰囲気を感じました。でも、室蘭の方がもっと水質はいいように思えます。船は運搬の費用も高額になると思われたため、必要な艀装品だけを持って、近畿大学ヨット部様からチャーターで大会に臨みました。

上マークと、スタートラインとのレグがあまり取れないために、スタートラインが明らかに下有利に見える時でも、上でスタートした方が、マークとの距離は近い。ということに、レース終盤になるに連れて、気がつき、後半では着順20番代を取ることが出来ました。ビックフリート故、スタート直後は、うまくスタートした艇のブランケに入ってしまうことも、ざらにあり、基本的なことだけど、周りをよくみておき、タックして如何に切り替えていくのが重要でした。全7R行なったのですが、どれも上マークアプローチで、レーラインギリギリでアプローチしてしまい、後続艇に上でブランケに入れられてしまい、回航をやり直すと言ったことが頻発してしまいました。初歩でもあるべきこともロクに出来ていませんでした。

レース初日と、2日目とでは、風向も180度代わり、2日目は陸風なのもありシフティでした。また、レガッタを通して、風はMax.11ktということもあり、中軽風でのクローズの走らせ方にはまだまだ改善の余地が必要なのだと思います。ただ、リーチング、ランニングではミスさえなければそこそこ戦えるだけの技量はあるのだと、少しだけですが自身につながりました。

最後に、前田は来年度も出場を果たしてください。期待しています。

「個人戦本戦」

前田 翔

今回の個人戦は去年から続き2回目の出場でしたが、今回はスキッパーでの出場もありちゃんと全国のレベルについていけるか心配でした。特にスタートは北海道とは全く質が違うものでした。最初の3レースぐらいまでは、艇の多さに尻込みしスタートで大きく出遅れる形となりとても悔しかったです。そこで、スタートはもう攻め込もうと気持ちを切り替えたところ、良いスタートが切れるようになりました。しかし、それでもレースでの最高順位は20位中盤であり、10番台の壁は大きものを感じました。僕が感じた大きな差は、スタート後のボートスピードの乗せか方、リーチング・ランニングでの走らせ方、マーク際でのタクティクスの3点です。あるレースで今回優勝した艇が僕らの一番下でスタートしたのですが、スタート時は僕らより出遅れていたのに、気づけば並び追い越されてしまいました。目の前で理想のスタート・スピードの乗せ方を見れたのは良い経験ができたと思います。リーチング・ランニングでは上位の艇はスピードの失速が少ないことが、大きな違いであると思いました。マーク回航でのタクティクスでは、全国ではかなり早い段階でインを取りに行く印象でした。僕は安全にいきすぎているんだなと実感しました。

今回の個人戦も多くの収穫と楽しさがあり、とても有意義なものでした。後輩たちにもこの経験をしてほしいと思います。

【インカレ団体戦予選】

全日本学生ヨット選手権大会 北海道予選																		
基本情報					結果		1R		2R		3R		4R		5R		6R	
	所属	Sail No	ヘルムス	クルー	点数	合計	点数	合計	点数	順位	点数	順位	点数	順位	点数	順位	点数	順位
1	小樽商科大学	4531	小池	秋山	101	2	3	3	2	2	2	2	1	1	5	5	9	9
2	小樽商科大学	4376	長岡	田中/橋本			5	5	4	4	5	5	5	6	7	7	4	4
3	小樽商科大学	4072	堀	久保田			7	7	9	9	6	6	6	9	9	9	8	8
4	室蘭工業大学	3805	前田	田村/中澤	104	3	6	6	6	6	7	7	7	8	3	3	7	7
5	室蘭工業大学	3545	小俣	堤/中澤			8	8	5	5	3	3	3	2	1	1	3	3
6	室蘭工業大学	3669	間野	中岡/中澤			ocs	10	8	8	9	9	9	5	8	8	5	5
7	北海道大学	4557	藤田	和泉/三ツ田	66	1	1	1	1	1	4	4	4	3	4	4	1	1
8	北海道大学	4290	鈴木	田林			2	2	3	3	1	1	1	4	2	2	2	2
9	北海道大学	4075	福田	森下			4	4	7	7	8	8	7	7	6	6	6	6

「室工を背負って」

堤 友輔

自分の未熟さから北大に負け、全国を逃した団体戦から一年。自分たちが最上級生になって自分たちで作ったチームで挑んだ大会。軽・中風域の中、全6レースが行われた。第1レーススタート直後、フットベルトが切れて沈。いきなり8位と最悪のスタートだった。しかし、2レース目以降立て直し少しずつ順位を上げて5レース目では1位。レースごとに悪かったことを反省しすぐに次のレースに活かすことができた。自分の力をすべて出し切れた。チームのみんなもそうだったと思う。

しかし結果は大差で北大に負けることになった。チームとして実力が足りなかった。「横文字をたたいてはいけない...。」去年涙を流して悔やんだあの経験をチームに徹底できなかった。各艇ごとのウィークポイントを見極め改善させるような練習が出来なかった。3日間を通して、全国で戦えるチームを作ることの難しさを思い知らされた大会となった

「インカレ団体戦予選」

中澤 建介

私は交代要員でのスタート。チャッカでいつでも交代できるように体を温めていました。風向、風の振れ、波、相手の動きなどのサポート、何か自分もみんなの役に立たないと必死だった。4年間の集大成であるインカレ団体戦。誰もがチームとして走りたい気持ちでいっぱいだった。私が交代したのは5レース目のことでした。現役では切羽詰まりすぎて判断することが難しかったのでOBさんに判断していただきました。私はいつでもいける準備はできていました。ヘルムスは前田翔、4月からあまり一緒に乗っていなかったなので息が合うか心配だった。しかし、そんなことを微塵も感じさせない走りだった。5レース目の結果は3位でフィニッシュすることができた。1位ではないが、4年間やってきたことがそこに詰まっていた。チームとして走れたことが本当にうれしかった。

OBさん方に多くのサポートしていただき、感謝しきれません。本当にありがとうございます。これからは現役のサポートをしっかり頑張ります。



【ポイントレース】

ポイントレース 第1戦																				
	基本情報				結果		1R		2R		3R		4R		5R		6R		7R	
	所属	Sail No	ヘルムス	クルー	合計点	順位	順位	点数	順位	点数	順位	点数	順位	点数	順位	点数	順位	点数	順位	点数
1	小樽商科大学	4531	小池	秋山	20	1	2	2	1	1	OCS	16	1	1	3	3	3	3	10	10
2	小樽商科大学	4376	長岡	田中	60	12	3	3	RET	16	OCS	16	8	8	5	5	13	13	15	15
3	小樽商科大学	4072	堀	久保田	52	10	12	12	9	9	OCS	16	12	12	10	10	8	8	1	1
4	小樽商科大学	3878	太田	橋本/角田	36	4	7	7	2	2		16	4	4	2	2	10	10	11	11
5	小樽商科大学	3993	鈴木	田林	22	2	4	4	4	4		16	6	6	4	4	1	1	3	3
6	北海道大学	4075	中村	三ツ田/和泉	36	5	9	9	12	12		16	3	3	6	6	4	4	2	2
7	北海道大学	4290	金井	小倉	70	15	8	8	13	13		16	13	13	9	9	125	15	12	12
8	北海道大学	42	西島	村上万/村上勤	57	11	14	14	11	11		16	14	14	11	11	2	2	5	5
9	北海道大学	4424	藤田	三ツ田/和泉	42	8	15	15	5	5	2	2	9	9	DNF	16	5	5	6	6
10	北海道大学	424	福田	森下	36	3	1	1	7	7		16	10	10	8	8	6	6	4	4
11	北海道大学	2783	植田	町谷	62	14	13	13	6	6		16	11	11	13	13	12	12	7	7
12	室蘭工業大学	3542	牧	中澤	61	13	11	11	10	10	1	1	RET	16	14	14	11	11	14	14
13	室蘭工業大学	2545	小俣	中岡	48	9	10	10	8	8	3	3	7	7	12	12	14	14	8	8
14	室蘭工業大学	3669	間野	堤	41	7	6	6	3	3		16	5	5	7	7	7	7	13	13
15	室蘭工業大学	3805	前田	田村	40	6	5	5	14	14		16	2	2	1	1	9	9	9	9

ポイントレース第2戦														
	基本情報				結果		1R		2R		3R		4R	
	所属	Sail No	ヘルムス	クルー	合計点	順位	順位	点数	順位	点数	順位	点数	順位	点数
1	小樽商科大学	2483	長岡	後藤/川村	40	11	5	5	9	9	12	12	DNS	14
2	小樽商科大学	3378	堀	角田/岡林	32	8	8	8	8	8	8	8	8	8
3	小樽商科大学	3890	橋本	田中/久保田	31	6	9	9	6	6	9	9	7	7
4	小樽商科大学	2787	秋山	久保田/田中	45	12	11	11	12	12	11	11	11	11
5	小樽商科大学	3684	太田	後藤	36	9	10	10	RET	14	3	3	9	9
6	室蘭工業大学	3545	小俣	大塚	14	3	6	6	3	3	2	2	3	3
7	室蘭工業大学	3669	牧	堤	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1
8	室蘭工業大学	3542	中西	田村	22	5	7	7	5	5	5	5	5	5
9	室蘭工業大学	3805	前田	伊藤	12	2	2	2	4	4	4	4	2	2
10	北海道大学	2783	林	村上万	36	10	12	12	7	7	7	7	10	10
11	北海道大学	3714	中津	村上勤	46	13	13	13	11	11	10	10	12	12
12	北海道大学	4075	立花	町谷/松谷	32	7	3	3	10	10	13	13	6	6
13	北海道大学	3993	植田	和泉/三ツ田	16	4	4	4	2	2	6	6	4	4

「ポイントレース 第二戦 9月24・25日」

牧 祥巨

インカレ団体戦予選が終わり、代替わりして初のレースでした。レース自体は、1日目は1~2mオンデッキからインデッキ位の風域でした。2日目は風がなくノーレースになり1日目の結果がそのままポイントレースの結果になりました。

結果自体は全レース1位で優勝することができましたが、参加選手は新人が多く、北大のレギュラー陣が不参加、僕のクルーが4年生だったことなどが勝因だったのだと思います。

レースは潮が強くマーク付近のアプローチは特に気を付けました。風はそんなに振れることなく安定していました。

ですが勝てたのは自分の実力ではなく、堤さんの力が大きかったものと思います。ですのでこれからは導かれる側ではなく導く側だったので今回のような結果を次のレースにも出せるようにこの冬自分の弱点や不足している知識やルールなどを勉強して同期の2年クルーや1年生にトップホーンを聞かせたいとおもっています。

【レセプション】

「一年生の登竜門？」

山城琢海

8月末から小樽での練習が始まる中、俺たち1年生は、レセプションの地獄の2週間と言われる時間が始まった。

先輩達から「前々か準備しないと死ぬよ、マジで」とは言われていたものの、結局なにも決まらないまま始まってしまった。

なんとか曲、ダンスが決まり練習が始まった。衣装も1年生だけのオリジナル T シャツを作りかなり盛り上がった。

最終的に出し物はダンスだけになり、暇さえあれば練習していた(ならもっと完成度が高くなっていたはず)。

衣装がスカートだったために男子全員は足の毛全剃りということになり、風呂場で男そろって必死に剃っている光景には笑いがこらえられなかった。当日はとにかくバカになって踊ることしか考えていなかった。

結果はK帆の顔芸に救われ大成功だった(メインはダンスのはずだったのだけどね)。

何はともあれ無事に終わってよかった。

【50周年記念式典】

4年 堤 友輔

10月9日京王プラザホテル札幌にて50周年記念式典を開催いたしました。ヨット部創立当初お世話になった田畑氏にもお越しいただき、第1期から第54期まで70名以上の方々にお集まりいただきました。お忙しい中、ご出席いただき本当にありがとうございます。ヨットが一艇もない状態で始まったヨット部。OB・OGの皆さんには当時の苦労や思い出などたくさんのお話を聞かせていただき、1期生の方々には部歌も披露していただきました。

今回の式典を通して自分たちがこの室蘭の海で艇庫に泊まり練習し全国を目指し活動出来ていることの素晴らしさ、有難さに改めて気づくことができました。OB・OGの皆様が作り上げてきたヨット部。これからも皆様の思いを受け継ぎ、感謝の気持ちを忘れずに活動していきたいと思っております。本当にありがとうございました。

7. 来年度への意気込み

「来年度の意気込み」

3年 前田 翔

来年はとうとう最後の年になってしまいました。早いものです。僕が部活に入った時、まさきと二人しかいないので最後の年はどうなるのかと考えたものです。しかし、その分後輩が多く入ってくれたのは嬉しかったです。最後の年、僕は後悔だけはしないように精一杯やろうと考えています。自分が一番上の代ってこともあり、後輩たちをどのように育成するか、どう戦っていくかを考えていくのが今の楽しみです。

来年度は、自分のレベルアップを引き続き考えつつ、いかに勝てるチームを作るかが課題になっていくと思います。自分はスタートが苦手であるので、もう一度ヨットの動かし方を勉強して最高スピードというものを磨いていこうと思います。勝てるチームになるには、相手より上手になることも大事である。

しかし、今のチームは、考える能力・相手を出し抜く能力が一番足りていないと思います。このため、練習のときから考えさせて相手を意識させるようにしていこうと思います。

この2点を来年度は上達できるように頑張っていこうと思います。

「Let's have fun!!」

2年 中西 紫織

来年度の私個人のモットーは『楽しむ』です。自分が楽しいとおもえる瞬間を増やすことでヨットをもっと好きになり、さらに楽しくなります。また、楽しいとおもえる瞬間を増やすためには練習が必要です。したがってヨットが上手くなることにもつながります。うまくなればレースで勝つ可能性も増えます。このように楽しむことはヨットの基本だとおもいます。

ですが今年一年で感じたことは、ただ純粋にヨットを楽しむのは簡単なようで難しいことだということです。なので『楽しむ』ということは課題でもあります。

またヨットだけでなく、ヨット部そのものが部員全員にとって楽しい場所であれば次の一年生もたくさん入部してくれるでしょう。そしてさらに楽しい部活になれると思います。そのためにも私達の代で部活を盛り上げていけるようにしていきたいと思います。

「来年への意気込み」

1年 瀬尾 涼太

今年はヨットというものに初めて乗り、何もかもが新鮮でした。ヨットの動く原理や各動作からロープワークなど、様々なことを先輩やOB・OGさんに教わりました。これからもお世話になることが多々あることと思います。まだまだ若輩者ですが何卒宜しくお願い致します。来年度、私たちは二年生となり後輩という存在ができます。後輩に対して私たちがしていたように、しっかりと指導していきたいと思います。そして今までは基本的にクルーとして乗っていましたが、来年からはクルーだけでなくヘルムスとしても乗ることになります。本当にまだまだわからないことばかりなので、日々の練習の反省や先輩の乗り方を参考に活かしていきたいと思います。また常に **trial and error** の精神を忘れずに、毎週の練習を大切にしていきたいです。



8. 来年度スケジュール

【2017年度行事予定】

4月

新入生歓迎会

5月

春季レース (6、7)

6月

全道選手権 (24、25)

7月

インカレ個人選予選 (1、2)

国体予選 (8、9)

エンルム祭 (18)

8月

期末試験 (7/31~8/4)

9月

レセプション (7)

インカレ団体戦予選 (8、9、10)

10月

OB懇談会

11月

12月

1月

2月

追いコン

3月

室蘭練習開始

卒業式 (23)

9. 2016年度収支決算

収入の部

部費 ^{注1} (未払い¥209,700含む)		830,000
援助金	OB・OG	105,000
	MSC	36,000
	学連・道連	42,000
アルバイト代		55,000
50周年式典余剰金		50,340
雑費		18,000
昨年繰越金		820,272
合計		1,956,612

支出の部

負担金	全日学連分担金	40,000
	MSC会費	195,000
	JSAF登録料	
	スポーツ保険料	
	年間上下架代	17,280
	計測証明証再発行代	0
小計		252,280
大会エントリー費	春季レース	10,000
	個人戦予選	24,000
	国体予選	40,000
	団体戦予選	30,000
	全道選手権	10,000
	ポイントレース(全2戦)	40,000
小計		154,000
470	修理道具	14,520
	部品	16,700
	備品	0
	マスト購入代	0
	セール購入代	0
小計		31,220
レスキュー	修理	51,718
	備品	0
	維持費	0
	小型船舶検査代	0
	ガソリン代	87,169
小計		138,887
交通費	自動車ガソリン代	200,942
	その他	0
小計		200,942
その他	備品	26,936
	食費 ^{注2}	0
	艇庫ガス代	35,784
	50周年式典関連費	54,282
	新入生歓迎会費	115,000
	セール・艇体計測費	12,000
	海洋センター利用券	0
	リワード関連費	31,500
	雑費	35,603
小計		311,105
合計		1,088,434

翌年繰越金	868,178
-------	---------

〔内〕	部費未払い	596,330
	実質残金	271,848

注釈

・本誌の収支決算は2016年4月～11月期間の収支である。

注1：部費内訳

[4～9月]	選手	¥8000×11人	マネージャー	¥1000×2人	=540'000
[10.11月]	選手	¥8000×6人	マネージャー	¥1000×1人	=98'000
	一名サポーター転向により	¥8000×4ヵ月	+	¥1000×4ヵ月	=36'000
	新歓代	¥12000×13人			=156'000
				合計	¥830'000
				内 部費未払い	¥209'700
				2016年4月以前の部費未払い額	¥386'630

注2：食費は今年度よりマネージャーに毎回支払う制度になったため、部費からは食費は出していない。

援助金内訳

第1期 役田 徹 様
第41期 舘 雅春 様
第44期 未穂子 様
第42期 三上 祐太郎 様
第44期 晴香 様

第1期 今泉 善勝 様
第41期 門間 康志 様
第44期 西田 良平 様
第47期 神田 銀平 様

室蘭セーリング協会 様
北海道セーリング連盟 様
民宿潮騒 様

以上の方々から2016年度に援助金をいただきました。また、次の方々にはセールを購入していただきました。

第46期 中山 友輝 様
第46期 吉田 昂史 様
第47期 石川 千晶 様
第47期 神田 銀平 様
第47期 佐伯 侑亮 様
第47期 新原 航平 様
第48期 市岡 伸也 様

第46期 山本 喜浩 様
第47期 青木 翔平 様
第47期 大加瀬 容平 様
第47期 北岡 湧 様
第47期 中村 竜太 様
第47期 三吉 康太 様
第49期 村田 明日香 様

この他にもインカレ予選・本戦や追いコンなどでの物品の支援、練習の指導をしていただきました。みなさまのご支援ありがとうございました。

これからも日々精進していきますので、ご支援のほどよろしく願いいたします。

10. 2017年度収支予算

収入の部		
	部費	1,408,000
	援助金	200,000
	アルバイト代	55,000
	昨年繰越金	952,478
	合計	2,615,478
支出の部		
負担金	全日学連分担金(見込み)	40,000
	470協会費(見込み)	0
	MSC会費(見込み)	48,000
	JSAF登録料(見込み)	90,000
	スポーツ保険料(見込み)	22,200
	小計	200,200
大会エントリー費	各種	160,000
	小計	160,000
470	修理道具	20,000
	艀装品	0
	備品	30,000
	セール購入代	160,000
	小計	210,000
レスキュー	修理	30,000
	備品	20,000
	維持費	10,000
	ガソリン代	100,000
	小計	160,000
交通費	自動車ガソリン代	230,000
	小計	230,000
その他	備品	20,000
	消耗品	10,000
	食費	0
	艇庫ガス代	38,000
	リワード関連費	40,000
	ルール講習会費	0
	新入生歓迎会費	0
	雑費	50,000
	小計	158,000
	合計	1,118,200

1 1. 編集後記

「Leeward No.23」の編集を務めさせていただきました山城です。今回は中西、瀬尾の3名の編集員で制作致しました。

本誌の作成にあたりまして原稿を書いてくださったOBの方をはじめ部員の皆さまご協力ありがとうございました。

何もわからないまま編集作業をスタートし、自分のパソコン知識の乏しさに絶望しつつも、先輩方に助けてもらいながら、なんとか完成しました。

ヨット部に入部してから早いもので1年が経ちました。このようにヨット部の仕事をこなせるようになるとは1年前の自分では思ってもみなかったことです。この1年間のことはすべてが初めての体験でした。たくさんの刺激を感じることができ、自分自身を見つめなおす機会にもなりました。これらはヨット部だからこそできたことだと思います。

4月には新1年生が入ってきて、私たちも先輩になります。1年間で先輩方から学んだことを下級生に教えていけるのか不安もありますが、新たな仲間と勝利を目指して頑張っていけることを楽しみに思います。

最後になりますが今年1年室蘭工業大学ヨット部が活動できたのは海洋センター、エンルムマリーナの方々をはじめ、近藤監督、OB・OGの皆様、そしてヨットに関わって頂いた全ての方々のご協力のおかげです。部員一同、皆様の支えを忘れることなく、全国大会を目指し邁進してまいりたいと思います。

今後とも室蘭工業大学ヨット部をよろしくお願い申し上げます。